

家庭学習は誰の課題か？

R6, 4月19日

釧路市立芦野小学校校長 高島 昌之

～ 自己肯定感を高めるとは？ ～

4月12日付で「家庭学習の充実・推進」についての情報は各家庭に伝わっていると思います。芦野小学校は、宿題の提出率は高いです。家庭学習とは、「宿題」と「自主学習」をあわせたものです。

今日は、「家庭学習の取組」について校長の想いや考えを紹介したいと思います。

芦野小学校では、自己肯定感の高い子どもを育てたいと考えています。自己肯定感とは「自己決定と自己責任」の生き方ができないと高まりません。この生き方には、これは誰の課題なのかを区分けする「課題の分離」の力が必要です。これができないと、目の前の課題を自分の課題として受け止められず周りの課題にすることで責任を負わない依存的な生き方を身につけてしまいます。目の前の困難を自分の課題とするには「傷つくリスク」を背負う勇気が必要です。

この勇気がないと「自分のせいじゃない」と思い込むことで自分を守ろうとします。そして、嘘や言い訳をついたり怒ったりふてくされることで周りをコントロールしようとする生き方を覚えます。人や周りのせいにしておけば自分が傷つくことを回避できます。自己肯定感の高さは、傷つくリスクを受け止められるかどうかに比例します。

～ 課題の分離（対人トラブルは、他人の課題に踏み込むことで起きてしまう）～

そもそも学習することは、誰の課題なのか？宿題は誰の課題なのか？親が、宿題をどうやってやらせようかとイライラして怒ったり、おだててその気にさせたりしようとしているとしたら、宿題は親の課題になっています。子どもは自分の課題ではないので、まるで他人事のようにふるまいます。

宿題をしてこないからといって学校では怒ったりしません。淡々と穏やかに下記の関わりをします。

1. 宿題をやって来ない場合は、下校までに時間を見つけて取り組んで提出してもらいます。
2. 宿題をやったけど忘れたと主張する場合は、「翌日提出」か「再挑戦」のどちらかを自己選択してもらいます。連続で忘れた場合は、下校までに2日分を取り組んで提出してもらいます。

～ 生き方（価値観の優先順序）を考える ～

本当はやっていないのに「やったけど忘れました」という例がよくあります。学校では本人の「やったけど忘れた」という申告があれば認めます。「やったと偽って再取組を逃れる」のか？「潔く申告して再取組をする」のか？「ばれなくてラッキー」なのか？「(ばれなかったけど)モヤモヤするから次は正直に言おう」なのか？ どちらの生き方を選ぶのかは、自分で決めてくださいと伝えます。

これは、どのような生き方を“良し”とするのかという「生き方の美意識」の問題です。学校では「家庭学習は自分の課題」ということを伝えて、どうするかという決断に責任を持つ（責任とは約束を守るということ）という「自己決定・自己責任」の生き方が勇気のある生き方だと促していきます。

1. 家庭学習の契約内容

令和6年度		責任	提出義務	忘れた時のペナルティ
家庭学習	宿題	義務	翌日	下校するまでに時間を見つけてやる
	自主学習	努力	なし	なし
	記録表	義務	朝 or 週末	必ず書くように指導される

後ほど、学年から連絡があります

2. 家庭学習のねらい

宿題のねらい	学習の基礎基本定着・授業の復習・提出物の習慣
自主学習のねらい	自分で工夫して、計画的に取り組む力をつける。(主体性・自律性)
学習時間のねらい	継続して取り組む集中力とスタミナをつける。(学年×10分+10分)
ペナルティのねらい	課題を先延ばしにしないで解決する力をつける。潔さをつける。

「時間ありき」の学習スタイルは、「時間をこなす」ことがねらいになるので、ダラダラと気が散ったやり方を身につけるリスクがあります。「内容ありき」の学習スタイルは、早く終わらせれば自分の好きに過ごせる時間が増えるので、効率的で集中したやり方を身につけやすいです。「家庭学習の時間」を呼び掛けているのは、学習に向きあう習慣を身につけさせたいねらいがありますが、内容が納得できるものであればこだわるものではありません。

3. 評価テストのねらい

テストのねらい	範囲を受けて、見通しを持った計画的・自律的な自主学習の定着
ペナルティのねらい	合格点の合否を受容する潔さと合格を目指して取り組む辛抱強さ

教育活動には、ねらいがあります。「宿題」「自主学習」「評価テスト」は、『学習内容の定着』『主体的な学習習慣の獲得』のねらいがあります。